

Formula Blue

YAMAHA SL KARTING

全日本カート選手権 FS125 部門東地域第 1 戦もてぎ大会

■開催日：4月21日～22日

■天候：晴れ ■参加台数：34台

木下藍斗、決勝ベストタイムは2番手もリザルトには結びつかず 山中秀馬は苦境を乗り越え、開幕戦でポイント獲得を果たす

全日本カート選手権 FS125 部門東地域第 1 戦もてぎ大会が、4月21日～22日の2日間、栃木県・ツインリンクもてぎ北ショートコースで開催された。東地域のヤマハ Formula Blue スカラシップドライバーに選出された木下藍斗、山中秀馬の二人のドライバーも、西地域の開幕戦で優勝を飾った清水英志郎選手に続こうと意欲盛んに開幕戦へ臨んだ。

Time Trial/Qualifying Heat

年間5戦のうち4戦がOK部門と併催となる東地域は、土曜日にタイムトライアルを行う2日間開催となり、今大会は土曜日の16時過ぎに実施された。

またエントリー台数が34台と多いことから、タイムトライアルは2組に分かれて行われる。受付時の抽選により、山中は先に出走するA組、木下は後から出走するB組となった。そのタイムトライアルでは木下が速さを発揮し、全体の6位となる好タイムをマーク。一方の山中は、練習時の好調さをタイムアタックで発揮できず総合26位となり、予選での挽回を期することとなった。

予選ヒートは、日曜日の11時半頃のスタートとなる。朝には公

式練習も組まれるため、マシンセットなどの確認を済ませて予選へと臨むこととなる。

3列目と好位置からスタートした木下は、序盤に4番手まで上がり、さらに2番手争いのグループに接近。最後は4位でチェッカーを受けたものの、途中の接触によりフロントフェアリングが脱落し、10秒加算のペナルティが科せられ、最終結果は15位となった。山中も中盤での難しい位置にいらながらも着実な走行を見せて順位を挽回し、最後は16位でチェッカーを受け、決勝でさらなる追い上げが期待される結果となった。

Final Heat



4月とは思えない陽気で、気温も30℃近くまで上昇した中、決勝ヒートのスタートを迎えた。フルグリッドの34台が一斉にスタートするため、1コーナーは大混雑となる中、木下、山中ともにレース序盤は集団をかき分けるような走行を強いられることとなる。

接近戦が多くなるため、リスクが高いが、両ドライバーともに懸命に順位を挽回していく。レース中盤を過ぎると、集団もバラけてくるため、少し走りやすくなり、木下はトップ10圏内で進出する。山中も、木下のやや後ろを走り周回を重ねていく。

レースが折り返しを過ぎると、木下は9番手まで進出し、さらに上位を窺う。木下は、最後まで接近戦を演じながらチェッカー

を迎え、9位でフィニッシュする。しかし、レース中の接触によりまたもフロントフェアリングが脱落していたため、10秒加算のペナルティが科せられ、20位という結果になった。

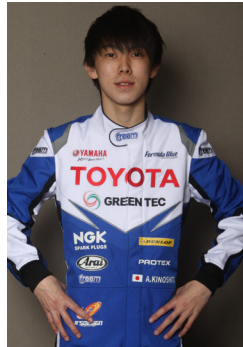
山中は、セッティングを変更した効果も現れたのか予選よりベストタイムを更新し、13位でゴールを果たした。

その後の裁定により12位へと繰り上がり、シリーズポイントを獲得した。

結果こそ、下位となった今大会だったが、木下は決勝中のベストタイムが全体の2番手となるなど、速さは十分にアピールできた。山中もヒートごとに調子を上げ、最後はポイントも獲得し、両ドライバーにとって、次戦以降へと繋がるレースとなった。



30 Formula Blue チーム KBF



木下 藍斗 (チーム KBF/ 神奈川県出身 /17 歳)
 練習でも調子はよく、上位に食い込める手応えは感じていました。タイムトライアルでは気温が下がっていて、タイムが伸びず6番手に終わり、予選では4位まで上がりましたが、途中で前方のカートが失速したのを避けきれず、追突してしまい、フェアリングが脱落、ペナルティを受けてしまいました。決勝も順位を上げ、タイムも全体の2番手と良かったのですが、中盤に寄せられ、相手のタイヤと自分のバンパーが絡まってしまい、またフロントフェアリングが落ち、マシンにもダメージを負ってしまい後半はついていくのが精一杯でした。タイムが出ていただけに悔しい開幕戦となりました。ただ戦える手応えはあります。本庄では、当てられない位置にいられるレース展開に持っていきたいと思います。

チーム代表：柳沢 和広【コジマブレンファクトリー】



スピードがあることはタイムトライアルで証明してくれましたが、これは想定内です。課題だった予選ヒートは上手くまとめられると期待していましたが、フロントフェアリングが脱落してしまい、アンラッキーだと思います。決勝は順位を上げてくる展開を想定していましたが、スタートで飲み込まれてしまい、それによって序盤のペースが上げられませんでした。これは次までに対処しなければいけない課題です。今回見えた課題を克服しながら、早めに結果を出して自信をつけさせれば大丈夫だと思います。

50 Formula Blue BEMAX



山中 秀馬 (BEMAX/ 茨城県出身 /16 歳)
 木曜日から会場に入って、練習走行を木金と行い、いい流れで本番を迎えていたのですが、タイムトライアルでタイムを上げることができず26番手になってしまいました。予選で16位まで追上げましたがきつかったです。決勝はセットも変更しながら臨み、13番手まで上がれました。自分でできることはやりきれたと思います。本庄は走ったことがないので、練習をしっかりとってレースに臨みたいを思います。

チーム代表：小野尾 司【BEMAX RACING】



練習の時のタイムが、レース用タイヤで出せず、その対応に追われて2日間が過ぎてしまいました。タイムトライアルでもう少し、ドライバーにコンマ1秒でもタイムを上げる努力をさせるべきだったかなという反省点があります。苦しい位置からのスタートで、本人はそこからタイヤマネージメントをして順位を上げるという課題に取り組み、予選・決勝と順位を上げてきたところは評価したいと思います。これまでは、このような状況下では慌ててしまうことがありましたが、シーズンオフに改善しようとしてきた取り組みが活きたのかなと思います。ただ評価できるレースではないので、次回もっといい位置でレースできるように仕上げていきたいです。

全日本カート選手権東地域第1戦 RESULTS

Pos.	No.	Driver	Team	T.T.	Q.H.
1	77	渡会 太一	K.SPEED WIN	38.661 ①	①
2	44	滝田真之祐	ミツサダ PWG RACING	38.938 ⑩	⑤
3	51	小田 優	BEMAX RACING	38.771 ③	⑧
12	50	山中 秀馬	Formula Blue BEMAX	39.184 ⑳	⑬
10	30	木下 藍斗	Formula Blue チーム KBF	38.884 ⑥	⑮

全日本カート選手権東地域ポイントランキング

Pos.	Driver	Team	Points
1	渡会 太一	K.SPEED WIN	35
2	滝田真之祐	ミツサダ PWG RACING	28
3	吉田 馨	RT WORLD	26
13	山中 秀馬	Formula Blue BEMAX	9
-	木下 藍斗	Formula Blue チーム KBF	0

EVENT CALENDAR

	East	Rd.1 22/Apr. MOTEGI	Rd.2 3/Jun. HONJO	Rd.3 1/Jul MOBARA	Rd.4 5/Aug. MOGAMIGAWA	Rd.5 9/Sep. SUGO	FINAL 18/Nov. SUZUKA
West		1/Apr. BIWAKO	20/May NAKAYAMA	17/Jun. APG	15/Jul. MIZUNAMI	26/Aug. KOHBE	